

# 渋滞見える化プラン

## TOPICS

### 「渋滞見える化プラン」 とは？

見える化とは、課題を「見える」ようにし、最適なやり方で重点的に解決すること。

道路利用者の皆さまに「見える」かたちで課題の解決に取り組んでいくプランです。

- ・道路の課題をデータできちんと把握します
- ・解決を急ぐべきところから重点的に対策します
- ・道路行政を、もっとわかりやすく「見える化」します

という3つの指針を立て、課題の解決に取り組んでいきます。



<http://www.ktr.mlit.go.jp/kyoku/road/mieruka/>

## GLOSSARY

### 用語解説

※1

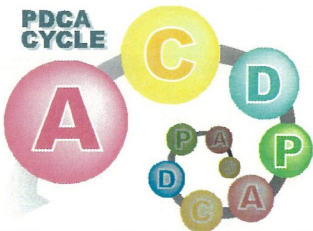
#### 渋滞対策優先箇所

学識者や道路利用者の代表による委員会の助言を受け、様々なデータや県民の皆様のご意見を踏まえて選ばれた、対策を急ぐべき箇所。

※2

#### PDCAサイクル

Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(反映)を継続的に繰り返し、全体の改善を図っていく手法。



## 渋滞対策優先箇所(39箇所)で 様々な対策を実施しています

(※1)

### 対策実施状況

- ・工事着手や事業実施など、目に見える対策を行っている箇所 **29箇所(74%)**
- ・対策の実施に向けた手続きが進行中である箇所 **7箇所(18%)**
- ・対策立案に向けて、調査等をすすめている箇所 **3箇所(8%)**

(※2)

今後も、PDCAサイクルを活用して、より効果的な対策を推進していく予定です。

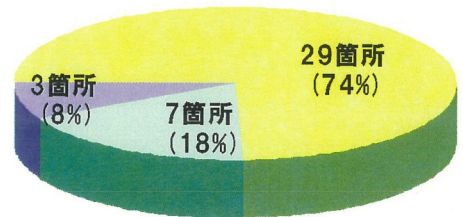


図 対策実施状況

## 山梨県渋滞対策優先箇所

### 大月橋東詰

#### 対策優先箇所選定理由

- ・幅員狭小、線形不良による速度低下 **県内第1位**
- ・年間を通じた渋滞が県内**第15位** (県平均の約16倍)
- ・県民アンケート「渋滞にまきこまれ、スムーズな移動ができなかった箇所は？」 **ワースト第15位**

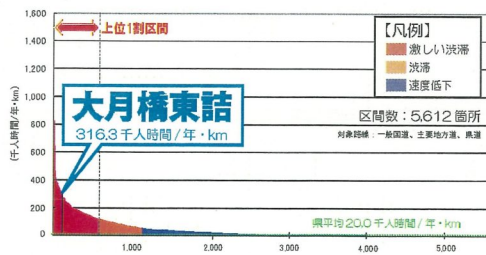


図 H16 渋滞損失時間年度合計

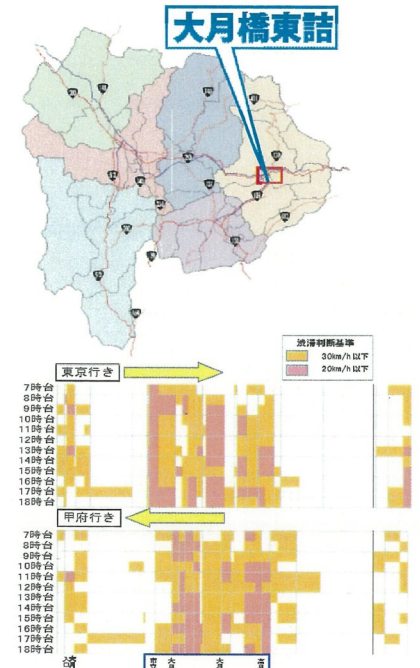


図 速度低下状況

REFERENCE  
お問い合わせ先

本書に関するご質問や、  
道づくりに関するご意見・  
ご要望などをお聞かせください。



国土交通省甲府河川国道事務所  
調査第二課  
tel 055-252-8886(直通)  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/koufu/>



山梨県 土木部  
道路整備課道路企画室  
tel 055-223-1691(直通)  
<http://www.pref.yamanashi.jp/>

# 大月橋東詰

## ■渋滞状況

大月市における国道20号は、中心市街地を通過しており、車道幅員が6.0~8.5mと狭く、特に、朝夕の通勤・通学時は

定常的な交通渋滞が発生し、自転車、歩行者の通行にも支障をきたしています。

【凡例】

- 激しい渋滞
- 渋滞
- 速度低下
- 渋滞対策優先区間

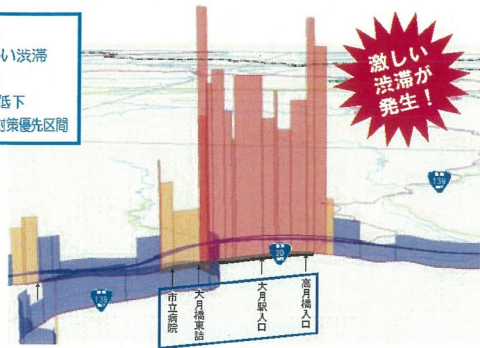


図 渋滞損失時間

出典：H18.1月プローブデータ



写真 大月橋東詰交差点から大月橋を望む



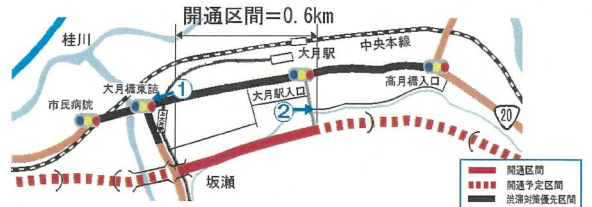
写真 大月駅入口付近から東京方面を望む



## ■今後の取り組み

一部区間の開通により、一定の効果は得られましたが、すれ違い困難な箇所や、裏道への通過車両の流入が依然存在します。このため、さらなる交通円滑化実現に向けて、引き続き

1工区、2工区の供用を目指します。なお、1工区については、平成19年度春に前線の開通を予定しており、より一層の効果が期待されます。



写真①



写真②

## ■目標

- ・旅行速度のさらなる上昇を目指す
- ・渋滞損失時間のさらなる削減を目指す
- ・裏道をさらに安心して利用できるようにする



## ■大月バイパス事業概要

大月バイパスは、混雑緩和と交通安全の確保を目的とした、大月市駒橋から同市大月町花咲（中央道大月1C付近）までの延長3.2kmの2車線の

バイパス整備事業です。平成18年7月29日に大月1丁目~大月2丁目までの一部区間が開通しました（延長0.6km）。

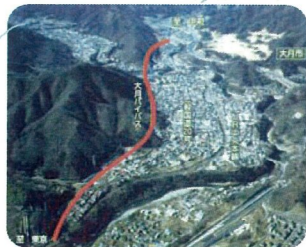


写真 大月バイパス

## ■一部区間開通後の整備効果

- ・旅行速度が10km/h上昇
- ・渋滞損失時間34%削減

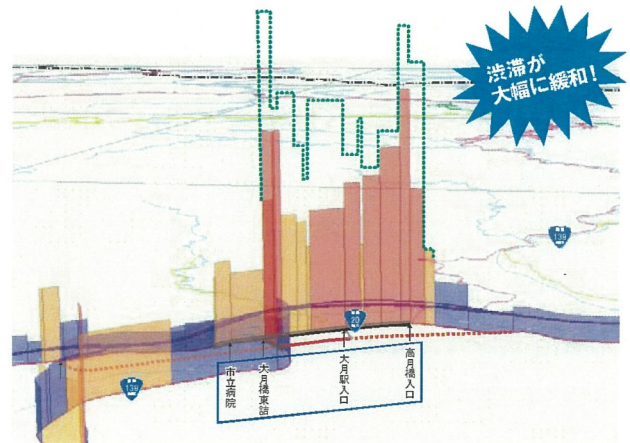


図 渋滞損失時間

出典：H18.11月プローブデータ

## ■地域の声



開通した部分の裏道の交通量が減少し、子供たちが安心して通行できるようになりました。



未開通の部分では、裏道となる生活道路を利用する通過交通が未だ多く、危険な状態です。

